別紙

大分大学　アセスメント・チェックリスト

学部・研究科	経済学研究科	学科・専攻・課程	博士前期課程

最終更新日	2021 年　12 月　17 日

ディプロマ・ポリシー	
1	グローバルからナショナル、さらにはローカルに至る様々なスケールにおける経済社会の諸課題を的確に理解するうえで、高度専門的職業人に必要な社会科学の専門的知識を有する。
2	現代の経済社会が抱える諸課題を解決するために、必要な情報を収集し、それらを理論と実証の両面から適切に分析できる実践的能力を有する。
3	理論的アプローチと実務に直結する応用的アプローチを通じて、現代の経済社会、とりわけ地域の抱える様々な課題に対処し、解決できる能力を有する。

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が，学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が，学位授与方針及び教育課程方針に則して，体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して，適切な授業形態，学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して，適切な履修指導，支援が行われていること
6	教育課程方針に則して，公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して，公正な卒業（修了）判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して，適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名　称	実施時期	実施頻度	対　象	チェック内容・項目	対応 DP			評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準							
								1	2	3				1	2	3	4	5	6	7	8
1	実施中	履修指導時に点検	成績評価	4，10 月	毎年	全学年	成績の点検	●	●	●	指導教員	研究科委員会	成績をもとに履修指導を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●
2	実施中	成績分布表	成績評価分布の確認	冬	毎年	全学年	全科目の成績評価分布を研究科構成員が相互に確認する	●	●	●	研究科構成員	大学院委員会	全科目の成績評価分布、受講者数、平均等を確認し、教員間の相互チェックにより検証を行うとともに、個々の教員が自己点検を行い教育技法の改善に取り組む意識をもつ。	●	●	●	●	●	●	●	●
3	実施中	論文	修士論文・リサーチペーパー	2 月	毎年	修了生	学修成果	●	●	●	論文指導教員団	研究科委員会	評価結果を次年度以降の研究指導資料として活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●
4	実施中	面談	院生懇談会	11 月	毎年	全学年	教育内容、設備・施設などへの改善意見など	●			学生	大学院委員会	学生から寄せられた意見や要望を教育内容、設備・施設などの改善資料として活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●
5	実施中	質問紙	教育・学修成果の検証に関するアンケート	3 月	毎年	修了生	カリキュラム満足度、学生支援満足度、設備・施設の満足度など	●	●	●	学生	教育支援課、研究科委員会	（全学）大学院委員会から報告されるアンケート結果に基づき、学生の自己評価や振り返り内容を次年度以降の教育内容の検討に活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●

別紙

大分大学　アセスメント・チェックリスト

学部・研究科	経済学研究科	学科・専攻・課程	博士後期課程	コース	

最終更新日	2021 年　12 月　17 日

ディプロマ・ポリシー	
1	高度な専門的研究の土台となる理論や学説を幅広くかつ体系的に修得し、自立した研究活動を行う能力を有する。
2	自らが設定した経済社会に係る課題について、課題解決に必要な情報を収集し、それらを適切に分析できる高度な専門的能力を有する。
3	地域の経済社会や企業経営が抱える課題について、高度な専門的研究から適切にアプローチし、リーダーシップと創造性をもって、課題解決に資する方法や政策を提示する実践的能力を有する。

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が，学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が，学位授与方針及び教育課程方針に則して，体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して，適切な授業形態，学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して，適切な履修指導，支援が行われていること
6	教育課程方針に則して，公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して，公正な卒業（修了）判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して，適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名　称	実施時期	実施頻度	対　象	チェック内容・項目	対応 DP							評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準							
								1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4	5	6	7	8
1	実施中	履修指導時に点検	成績評価	4，10 月	毎年	全学年	成績の点検	●	●	●					指導教員	研究科委員会	成績をもとに履修指導を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●
2	実施中	成績分布表	成績評価分布の確認	冬	毎年	全学年	全科目の成績評価分布を研究科構成員が相互に確認する	●	●	●					研究科構成員	大学院委員会	全科目の成績評価分布、受講者数、平均等を確認し、教員間の相互チェックにより検証を行うとともに、個々の教員が自己点検を行い教育技法の改善に取り組む意識をもつ。	●	●	●	●	●	●	●	●
3	実施中	論文	博士論文	2 月	毎年	修了生	学修成果	●	●	●					論文指導教員団	研究科委員会	評価結果を次年度以降の研究指導資料として活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●
4	実施中	面談	院生懇談会	11 月	毎年	全学年	教育内容、設備・施設などへの改善意見など	●							学生	大学院委員会	学生から寄せられた意見や要望を教育内容、設備・施設などの改善資料として活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●
5	実施中	質問紙	教育・学修成果の検証に関するアンケート	3 月	毎年	修了生	カリキュラム満足度、学生支援満足度、設備・施設の満足度など	●	●	●					学生	教育支援課、研究科委員会	（全学）大学院委員会から報告されるアンケート結果に基づき、学生の自己評価や振り返り内容を次年度以降の教育内容の検討に活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●